九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Local acceptance process in waste treatment sites: Three case studies from Thailand

ペッカンチャナポーン, プーム

https://hdl.handle.net/2324/2236325

出版情報：九州大学, 2018, 博士（学術）, 課程博士
バージョン：
権利関係：

（様式６－２）

氏　　名	Petkanjanapong Poome
論　文　名	Local Acceptance Process in Waste Treatment Sites: Three Case Studies from Thailand （ゴミ処理場にかかる周辺住民の受容プロセス：タイの三事例分析）
論文調査委員	主　査　　九州大学　准教授　氏名　相沢伸広 副　査　　九州大学　教授　　氏名　三隅一百 副　査　　九州大学　准教授　氏名　百村帝彦 副　査　　九州大学　講師　　氏名　コルナトウスキ　ヒェラルド 副　査　　九州大学　教授　　氏名　山下潤

論　文　審　査　の　結　果　の　要　旨

2019 年 2 月 1 日、九州大学伊都キャンパスイーストゾーン　2 号館　D 109 教室において、審査論文について公開にて詳細な審査を実施した。その結果につき、以下五点にまとめて報告する。

第一に、当該審査論文は、政治学において、タイを対象とした研究においてこれまでにない新しいかつ重要なテーマに取り組んだ価値ある研究であることを認めた。ゴミ処理場をめぐっては、民主政権下においても、そして軍政権下においても、共通して継続的に政治問題化し続けている極めて稀なケースであり。これは通常の政治体制変動論では説明できない事案であった。また、軍政下では、政府に対する異議申し立て事案はすべからく強権的に鎮圧されてきたが、その中にあって、ゴミ処理場に対するデモ運動については例外的に、自制的に対応しており、この点も従来の権威主義体制論からは説明できない事案であった。都市化の進行が長期的趨勢として確立する中、ゴミ処理をめぐるガバナンスは政治学においても、極めて重要な研究テーマであり、その中にあって、既存の政治学の研究では説明できない重要なケースについて、複数の事例研究に基づき、また社会学の知見を応用しながら分析した。その結果、第一に地方行政府の管理規模、第二に地域社会コミュニティにおけるリーダーの取り込みという説明要素を抽出した。行政単位がある程度の予算サイズを持つことによって､コミュニティのリーダーに対する予算措置が可能になることが明らかになり、そのコミュニティリーダーを通じて、近隣住民の不満の声を吸収することが肝要であるという分析を行った。このことはつまり、ゴミ処理場の住民受け入れのためには、行政単位を小さくすればするほど効果があるという通説とは異なる結果を導き出したことが高く評価される。

第二に、地域研究の観点から、地域社会学の観点から審査をした結果、行政問題について探求のポイントとして住民側の受け入れ可否という視点をおいて地域研究を進め、地域それぞれが持つ特徴、とりわけ住民側のネットワークの有無、そしてその活用の効果について、実態を詳述したことに学術的に価値を認めた｡とりわけ､ゴミ処理における成否を解く鍵としての地域の状況において、ネットワークモデルを通じて、各地の実力者の特徴とその個人的ネットワークの存否がもたらす影響について分析したことは、学術的にも大きな貢献と言える。

第三に本審査論文には、学術的のみならず、政策的意義においても高い価値が認められた。まずノンタブリー、ピッサヌローク、プーケットの三事例にかかるインフォーマルなネットワークをも明らかにする詳細な調査自身が持つ情報価値は、行政サーヴィスにおいても非常に重要な知見を持

つ。加えて、そうした詳細な情報に基づいて、これまで政府が実施してきた評価基準、すなわち、エネルギー効率と経済的効率、とは異なる住民の受け入れという評価基準に適した情報収集方法を構築し、住民のゴミ処理場受け入れの要素のみならずプロセスのあり方についても分析したところは、今後のゴミ処理場建設実施のための、極めて重要な示唆を持つ。

以上、審査論文について、詳細かつ厳正な審査を行い、その後合議の結果博士（学術）の学位論文として価値ある水準に達した業績であると認める。